

1.応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

本校家庭科では中学1年2学期にユニバーサルデザインを題材に「誰もが暮らしやすい社会・共生社会」への関心・気づき・行動をもたらす学習を予定している。

誰もが暮らしやすい社会、共生社会の実現に向けて、多様性体験やゲストティーチャーによるレクチャーを通してノーマライゼーションの理解をさせる。さらに、住まいや街づくりにおいて多様な人々が暮らすためには何が必要か、どんな工夫があるとよいか等、人と人、人とモノ・コトの関係性をみつけ、自分には何ができるのかを考え、社会に働きかける力を養いたい。

2.学習予定の概要を記入してください。

■授業計画（全8時間）

・ユニバーサルデザインについて、事前アンケートをする。

- 1) 身近なユニバーサルデザイン製品（現物）を用いて、ユニバーサルデザインとは何かを考えるきっかけにする。
- 2) ユニバーサルデザインの写真（住まい・駅・交通機関・学校・スーパー等）の事例紹介をし、ユニバーサルデザインの意味を考えさせる。
- 3) 多様性体験（おもりや軍手による手足の機能低下、妊婦ジャケット着用、視力低下、車椅子等）をとおして、ダイバーシティについて考えさせる。
- 4) 視覚障がい者、聴覚障がい者の方々のお話を伺い、誰もが暮らしやすい社会にするにはどのような視点が大切か考えさせる。
- 5) 公共空間・住空間ウォッチング
- 6) 誰もが暮らしやすい社会・共生社会の実現に向けて、現在あるユニバーサルデザインについて優れた点、不十分な点を発見し、さらなる創意工夫をする。
- 7) 公共空間・住空間のユニバーサルデザインオリジナル企画作成
- 8) 公共空間・住空間についてのプレゼンテーション(まとめ)

3.今までに住まいやまちに関する学習を行ったことがありますか。

○1 ある 2 ない

1の方は学習の内容について、ガイドラインの該当する領域に○をつけてください（複数可）

- 1 人と住まい
 - 2 住まいの空間と構成
- 3 住まいと社会
- 4 住まいと環境

その他特記事項がありましたらお書きください

ゲストティーチャーとして、視覚障がいや聴覚障がいの方々を講師に招いて授業をする予定である。助成金は講師の方の謝礼金、及び手話通訳者*への謝礼として使いたいと考えている。

*手話通訳者には手話通訳者の疲労度を考慮し、20分交代が原則。東京手話通訳等派遣センターの手話通訳報酬額の基準表によれば、1時間あたり5250円かかる。1学年7クラスあり、各クラスの授業中に行うとすると、最低でも延べ14人の手話通訳者への費用が発生するため、聴覚障がいの方の現状を生徒たちに実感させるためには金銭面で切実な状況である。